

「心を打つ情景を2ツ3ツ」

2020年7月15日

水中ウォーキング教室 大西 紀夫

- 水中ウォーキングを終え、心も静かに安定していた時である。自転車で山口市平川の九田川の川沿いを走っていると、川の向う岸の土手を散歩している親子を発見。眩しい太陽が降り注いでいる中、手を繋いだり離したり、傍に咲いている雑草を指したり、それはそれは美しい情景であった。なにげない光景ではあるが、実に微笑ましく見ることが出来た。こんな風に見えるのは水中ウォーキングのお陰かな！！
- 水中ウォーキングの隣で男女が泳いでいた。若い人ではあったが、クロールがとても速く、一寸見とれていて。漕ぐ手の先の水が跳ね、バシャバシャと音が間近で聞こえる。これまでの人生の中で、こんな近くで本格的に泳ぐ人を見たことがなかった。なので、なんでもないことかも知れぬが、感動した。
- 水中ウォーキングでの体験をひと言。10人前後の会員の参加であるが、人生経験を重ねた人たちが多く見られ、とにかく皆さん、とても優しい。その中で懸命に運動されていることに、感動と「生きる」という凄さを感じている。
- スポーツクラブNAPの駐車場には、何時も自動車が満杯である。健康志向の人が多いことに驚くばかり。ほかの教室を覗いて見ても、皆様が自分に合ったと思われる運動をされている。今の日本は幸せな時代なのだろう。この幸せを持続させたいものである。ある時、NAPの廊下を小さな子供がはやくはやくと目的の所に向かって走っていた。何か凄くほほえましい光景であると実感した。
- 7月15日の水中ウォーキングでのこと。「ワンチーム」という言葉を思い出した。「ワンチーム」とは本来2019年のラグビーワールドカップでの日本代表が苦闘の末に世界でベスト8に進出した時に紹介されたものである。その時の合言葉が『「ワンチーム」で、心を一つにして頑張ろう』というものだった。その言葉がいみじくも水中ウォーキングの水中バレーで発揮された。10人前後の会員の水中バレーであるが、普段はせいぜい20回ぐらいのパスの連続である！さあ、これが最後ですと松本インストラクターが声かけすると、どうだろうか！実にパスが90回を少し超えたのである。この時ばかりは会員全員の気持ちが「ひとつ」になったと思える。まさに感動ものであった。ある意味では会員が「ワンチーム」と化した一瞬だったと思う。それにしても教室のモットーである「楽しく運動習慣を身につけよう」の上に「ワンチーム」という言葉がピッタリであった。